

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第13週	第12週	第13週		第12週		第13週		第12週		第13週		第12週		第13週		第12週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	265	357	22	0	29	7	19	0	19	6	8	0	8	1	2	0	2	0
咽頭結膜熱	34	36	6	0	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4	0	4	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	118	161	15	0	15	0	8	0	8	0	0	0	0	0	7	0	7	0
感染性胃腸炎	137	116	41	2	25	14	25	0	25	7	0	2	0	5	0	0	0	2
水痘	20	15	1	0	4	7	4	0	4	7	0	0	0	0	0	0	0	0
手足口病	12	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	37	34	4	0	5	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	38	30	4	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	8	3	2	0	2	2	0	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0
RSウイルス感染症	23	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急性出血性結膜炎	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	/	0	/	0	/	0	/	0
流行性角結膜炎	6	10	0	0	0	0	0	0	0	0	/	0	/	0	/	0	/	0

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況

<感染性胃腸炎の報告が増えています。>

感染性胃腸炎とは、食品や飲料水をとおり、経口的に細菌、ウイルス、寄生虫などの病原体が腸に感染し、様々な消化器症状を起こす病気です。よく知られているノロウイルスは感染性が強く、患者の便や吐物、ウイルスに汚染された食品を介して感染が拡大していきます。感染を拡大しないためには、便や吐物などの適切な処理、手洗いの徹底が必要です。衣類などが便や吐物で汚染された時は、家庭用塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）でつけおき消毒後、他の衣類とは分けて洗濯しましょう。

○次亜鉛素酸ナトリウムの希釈

市販されている家庭用塩素系漂白剤（ハイター、ブリーチなど）の濃度は約5%です。下記の表は1リットルの水に加えて作る場合に必要な原液（5%と10%の場合）の量です。作りたい消毒液の量によって、使用する原液の量が異なりますので、原液の濃度を確認してから、下記の表を参考に消毒液を作ってください。

○布団や絨毯などの消毒が難しい場合

吐物を静かにかつ丁寧に拭き取った後、スチームアイロンなどで加熱しウイルスを十分に不活化することが重要です。

消毒対象	必要な濃度	原液の濃度	希釈倍率	1リットルの水に加えて作る場合に必要な原液の量
便や吐物が付着した床やおむつ等	1000ppm (0.1%)	5%	50倍	20ml
		10%	100倍	10ml
衣服や器具などのつけ置きトイレの便座やドアノブ、手すり、床等	200ppm (0.02%)	5%	250倍	4ml
		10%	500倍	2ml

インフルエンザの予防について

① 流行前のワクチン接種

インフルエンザワクチンは、感染後に発症する可能性を低減させる効果と、発症した場合の重症化防止に有効と報告されています。

② 飛沫感染対策としての咳エチケット

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。咳やくしゃみを他の人に向けて発しない、また、咳やくしゃみなどが出るときはできるだけマスクをするなど、普段から咳エチケットを心がけてください。

③ 外出後の手洗い等

流水・石鹸による手洗いは、手指など体についたインフルエンザウイルスを物理的に除去するために有効な方法乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度（50~60%）を保つことが有効です。

